

小平西のきずな

「小平西地区地域ネットワーク」ニュース No. 49

2024年3月09日（土）発行

発行責任者:草野篤子(白梅学園大学)

TEL: 042-346-5639

住所:〒187-8570 東京都小平市小川町1-830

介護福祉教育に携わって雑感

西方規恵

(子ども学部家族地域支援学科)

私は介護福祉士教育・養成に訳30年携わってきました。その頃は、介護福祉士の資格はできて数年しかたっていない頃でした。養成をする学校があちらこちらででき始めた頃でした。それまで、介護職は子育てや家族の世話をした経験があればだれでもできると考えられていた時代でした。しかし、高齢化時代を見据えて、社会福祉の資格制度が成立したことで、大きく変わり始めていました。高齢者が増えると同時に、質が求められる、だれでもできるものではなく、専門的な知識や技術を持った人材が介護の現場に求められると始まったのでした。

介護は、介護が必要な方の生活を支える仕事です。しかし、何かをしてあげることで、その人の言うとおりに何かをすることではありません。その方が、介護が必要な状態でなかったらどのような人生を送りたいのか。その方がその人らしい人生を全うできるように支える仕事です。その方がどのような人生を望むのか、主体はその方です。その本人の希望を引き出し、どのようにすれば

実現できるのか、専門的な知識や技術を提供し、共に実現できるような支援をすることです。それを支える根底には、深い人権に対する理解と尊重する考えが必要です。

介護福祉士の資格制度が整って、高齢者や障害のある方の介護の状況は改善したでしょうか。残念なことに介護者の不足や人材不足がずーと言われています。介護保険が始まった時に「介護の社会化」と言われました。しかし度重なる制度の「改正」で、介護保険以前の状態になるのではないかと懸念されています。質も低下しているのではないかと心配になります。人材の不足は、きちんと教育がされないままでも介護の現場で働かざるを得ません。派遣会社から来る方の中には、前日まで全く違う仕事をしてきた方が来るということもあると聞きます。人が足りない、残りの人にしわ寄せが行く、身体を壊して辞めていく、さらに人手が足りないという負のスパイラルに陥っていきます。それらは介護の必要な方々を放置することに繋がってしまいます。

そのようなことが無いよう、介護や社会福祉の専門職が働けるような財政的な支援や抜本的な制度の変更が必要ではないかと考えます。

小平西地区ネットワークって何？

2012年3月17日に白梅学園大学関係者が様々なNPO、ボランティア団体、民生・児童委員、町内会、大学・学校などに関係する方々に呼びかけて「お互いの顔が見える人間関係が豊かな地域づくり」を目指して立ち上げました。個人ベース(団体の担当者でも可)の加入を基本とする開かれたネットワークです。市民の皆さん一緒に活動に参加なさいませんか？

渡辺穂積さんの思い出

細江卓朗(西ネット地域世話人)

渡辺穂積さんと初めてお会いしたのは、2010年12月の小平第一小学校学校の餅つき大会でした。女房に誘われて同じ民生・児童委員をされていた渡辺穂積さんと、福井正徳さんを会場で紹介してもらいました。お二人から自治基本条例の素案作成に関わった委員が、まちづくりやボランティアに関する勉強会をしている「市民プラザこだいら」に誘われて、2011年2月会員になりました。

3月11日東日本大震災が発災し、ボーイスカウト仲間と災害ボランティアネットワークチーム小平を立ち上げ石巻などの被災地に入った時、入会間もないにもかかわらず、会員の皆様から多額の支援金を頂いたことは忘れることのできない思い出です。

被災地で学んだことは、日頃の付き合いが出来ている地域は被害が少ないということです。2012年3月白梅学園大学が地域の絆を作るために、小平西地区・地域ネットワークを立ち上げるということで参加しました。大学教員、渡辺さん、福井さんなどと共に、地域の居場所を作ろうと打ち合わせを重ね2013年2月コミュニティサロンほっとスペースさつきを開所しました。代表に就かれた渡辺穂積さんの笑顔を決やさない温かな振る舞いが、

大勢の方々に愛されるさつきの原動力であったとつくづく思います。

地域の居場所としては小平市で最初、東京都でも早く、さわやか福祉財団の清水理事長も見学に見えました。東京MXテレビにも取り上げられ放送されました。小平第一小学校の登校安全見守りのボランティアが減って困っていた時、渡辺さんをお願いしたら快く引き受けて下さいました。また放課後子ども教室の囲碁・将棋の指導も行っておられました。

中央公園で開催される朝のラジオ体操にも毎日参加

されていて、大勢の方に「元気！また明日ね！」と声掛けしておられました。



小平で一番会員数が多い高齢者クラブ富寿美会の会長など、地域に無くてはならな

い存在であった渡辺穂積さんが急逝されて、驚くとともに残念でなりません。

渡辺穂積さんのご冥福を心からお祈り申し上げます。

渡辺穂積さんとの出会いとこれからに向けて

一さつきのモットー「誰もが意のままに居られるところ」-

森山千賀子(ほっとスペースさつき副代表・西ネット事務局)

下記は、渡辺穂積さんが小平西地区地域ネットワーク(以下、西ネット)の設立集会で話された内容の一部です。

小平市には高齢者クラブ連合のもとに33のクラブがある。我がクラブ(「富寿美(ふじみ)会」)は、小川1丁目、鷹の台、上水新町、津田町の一部をエリアにしている。(中略)最近「孤立死」が途切

れない。(中略) 私たちに今大事なのは①あいさつ、②世代間交流、③井戸端会議(現代風にいえば「コミュニティ・カフェ」)。愚痴や相談ごとを気楽に話せるようにしたい。

渡辺穂積さんは、地域に目を向けてきた時から上記の①②③を意識され、また、居場所づくりには「場所」・「人」・「金」の3要素が必要と話され、

コミュニティ・サロン「ほっとスペースさつき」
(以下、さつき)の立上げと運営という実活動を行って来られました。場所の確保のための空き家探し、渡辺さんの人脈での「人財」(スタッフ)確保、出資金やバザー、助成金などによる「お金」の工面、ランニングコストの計算など、居場所づくりの3要素はこれからも語られる重要なキーワードになるでしょう。

また、地域のご意見番とでもいうのでしょうか。小学校等の学校に通う保護者の方がさつきに来ら

れて、相談されている場面も何度となく見受けました。それだけたくさんの魅力の持ち主だった思うとともに、「誰もが意のままに居られるところ」を実践として作ってこられたのだと思います。

渡辺さんから教えていただいた数々のことを、これからは生かしていくことが私たちの役目です。在りし日の姿を偲び、ご冥福をお祈り申し上げます。

11月あそぼうかいについて

平芽実・西川明花・小野結菜

11月26日に11月あそぼうかいを開催いたしました。今回は「秋の収穫祭～秋のものを集めよう～」と題して、コーナーごとにテーマを決めて、秋を感じられるようなあそぼうかいを目標に準備を進めました。各コーナーごとの内容を当日の様子も踏まえて紹介していきます。

まず、受付コーナーではきのこの名札を用意しました。それぞれのコーナーへと向かう前に、秋を感じて貰うべく、紅葉やミノムシ、栗といった装飾の工夫をしました。また、収穫に欠かせない籠も用意しました。

制作コーナーでは新聞紙と画用紙を使いぶどう作りを行いました。画用紙や折り紙を6色を選ぶことができ、仕上げに葉っぱを付けることでより実物そっくりになります。参加者さんと素材の違いを楽しみ、ぶどうを完成させ果物の収穫を味わうことができました。



ホッとスペースでは参加者さんと壁に貼ることで作り上げられる紅葉の装飾や、秋にまつわる絵本を揃えました。参加者さんの中には「今日も絵本沢山読んだ!」と喜んでくださった方もいたそうです。秋を感じ、誰もが安心して過ごせる空間ができあがっていました。



あそびコーナーではスポーツの秋をテーマに、体を動かしながら秋の野菜を収穫します。動物の口に野菜を入れるゲームや、おもい探しなど3種類のあそべる場所を作りました。

おわりのつどいでは音楽の秋をテーマに、音楽と劇を融合、見て・聞いて・やりとりして楽しい空間を作りました。音楽をかけ楽器のクイズを通し、参加者さんと一緒に楽器を知ること、劇中の演奏をより楽しむことができました。

当日は、学生も参加者さんも笑顔で楽しむ姿が多く見られました。7月に続き、更に良いものを作ろうという意識により、学生からは「11月の方が大変に感じる」という声も聞こえました。しかし、試行錯誤を乗り越え無事に11月あそぼうかいを終えられたことは達成感に繋がったと思います。

白梅子育て広場第 17 回シンポジウム開催

山川琴音(実行委員長)子ども学科 2 年



1月20日に、白梅子育て広場第17回シンポジウムを開催しました。今年度の活動は、1年間を通して地域の子育て支援団体と共同で企画を開催する機会が多くあり、学内外で開催したイベントに昨年度よりも多くの方にご参加いただくことができました。これを踏まえ、「地域が求める場と白梅子育て広場の連携」をテーマに、第一部では学生による基調報告、第二部では地域にある子育て支援団体を見学して学んだことを学生が伝えたのち、グループディスカッションを行いました。今回は、第一部と第二部の様子、初の試みである当日保育「あそび体験スペース」について、ご紹介させていただきます。



第一部の基調報告では、昨年度のシンポジウムを振り返り、今年度の活動をどのように展開していったのかをお話させていただきました。それを踏まえ、地域の

方々から白梅子育て広場がどのように見えているのか、地域の子育て支援も行う企業やボランティアとして子育て支援に携わっていらっしゃる方に実際にインタビューして分かったことを発表しました。このインタビューでは、白梅子育て広場の強みが学生主体で運営されていることであると分かり、今後の白梅子育て広場に期待することとして、さらに地域の輪に入り様々な外部とのつながりを深めて視野を広げていってほしいということをお聞きしました。このようなインタビューを基に、最後に白梅子育て広場の今後の展望について考え、発表しました。

第二部では、地域の子育て支援団体を訪問し、その施設がどのような工夫をして地域に貢献しているのか、学んだことを学生の口からお話させていただきました。そこでは、その施設ならではの工夫を見ることができました。その発表を基に今の自分が地域の子育て家庭と関わることのメリットについて考え、子育て家庭と様々な世代の方が交流することの利点について意見交流をしました。さらに、子育て家庭と様々な年代の方がつながる環境を作るために白梅子育て広場は何ができるのかを話し合いました。

さらに、今年度のシンポジウムでは「あそび体験スペース」という当日保育の場を設けました。このコーナーでは今年度の活動で使用した遊具や装飾物を展示し、実際に遊んだり、気に入ったものをお持ち帰りいただくことができます。お子様をあそび体験スペースに預けて保護者の方はシンポジウムに参加する、もしくは、保護者の方もお子様と一緒にあそび体験スペースで遊んでいただき zoom でつないでいるシンポジウムを見るという二つの方法から保護者の方に選んでいただき、安全に配慮して企画を開催しました。今年度新たに導入したコーナーで改善点もたくさんありましたが、装飾物などをたくさんお持ち帰りいただくことができました。

今回のシンポジウムで見えてきた白梅子育て広場の課題や魅力を来年度の活動に活かし、さらに良い団体になれるよう努力していきます。

朝鮮大学校 保育科 25 期 実技発表会

—豊かな表現力が場を盛り上げる—

森山千賀子(白梅学園大学)



2024年2月2日(金)の17時開演と20時開演の2回公演で、朝鮮大学校保育科25期生による「実技発表会」が行われました。私は「社会福祉」科目担当の非常勤講師として10年以上関わらせていただいておりますが、さまざまな理由で伺うことができなかったのですが、今回17時の部に初めて参加させて頂きました。

演目は7つ(①人形劇「つり針にかかったきつね」、②パネルシアター「ふしぎなトンネル」、③エプロンシアター「どうぞのいす」、④手影絵「だーれだ」、⑤音楽劇「宇宙旅行」、⑥手あそび「だいじょうぶ ズッコ!」、⑦劇「スミー」)あり、8名の保育科1年生が複数の演目を分担

して演じておりました。全体を通して感じたことは、豊かな表現力です。なかでも表情の豊かさが場の雰囲気盛り上げておりました。

専任の先生から、前日は夜遅くまで(実際には2日の午前2時頃まで)練習をしていたとお聞きました。どうりで当日の2月2日の1限の「社会福祉」の授業は(?!)、さぞかし眠かっただろうと思います。その時の表情とはまったく異なり、配役もそれぞれの持ち味とぴったりとあっており、朝鮮語ではありますがしっかりと演技でストーリーがよく伝わってきました。時間が許す限り参加できたらと思います。貴重な体験をありがとうございました。



小川町一丁目児童館の今

館長 二瓶 功次



小川町一丁目児童館では1月28日に、乳幼児向け親子クラスの参観日を開催しました。今回は、2歳児向けの「ふたばクラス」と3歳児向けの「みつばクラス」合同での開催ということもあり、通常の親子クラスに比べて多くの参加がありました。参観日では、2月がもうすぐということで、節分にちなんで「オニのつのぼうし」作りや、豆まきをしました。

「オニのつのぼうし」作りでは、こども達がお花紙を上手に丸めて、鬼の髪に見立ててぼうしに一つ一つ貼り

付けることが出来ました。完成したオニのぼうしをととても嬉しそうに被る子ども達の様子が印象的でした。豆まきでは、まず初めに皆で「鬼はそと、福はうち！」と掛け声の練習をした。その後、実際に鬼が登場すると、それまで元気よく掛け声の練習をしていた子ども達が静かになり、何人もの子どもがお母さんやお父さんの後ろに隠れてしまった。それでも職員とお母さんお父さんが励まし、豆

まきを促すと、子ども達は顔が引きつりながらも頑張って豆まきをしてくれました。

参観日を合同にしたことで、2歳児と3歳児の子ども達が仲良くなることが出来ました。普段は別々のクラスに通う子ども達が一緒に並んで座り、行事に参加する場面が沢山見られてとても微笑ましかったです。今後も児童館並びに子ども広場のイベントや季節行事を楽しんでいただけたら嬉しいです。

だれでも食堂に参加して

白梅学園高等学校 3年 高橋 愛結

私は11月に、小川西町公民館の「だれでも食堂」の活動に参加させていただきました。「だれでも食堂」は、月に1回第1日曜日のお昼に活動していて誰でも訪れることの出来る食堂のことです。私は、春雨サラダを同じチームの方と一緒に作ったり、配膳をしたりと様々な体験をさせていただきました。

実際に参加してみて、驚いたことがありました。それは、小平市の地域ネットワークの広さです。食堂には私が予想していたよりも幅広い年齢層の方々が大勢いらっしゃっていました。そして、それぞれお知り合いのようであちこちで楽しそうにお話している姿がとても印象的でした。小さな子どもに話しかけるお年寄りの方も多くいらっしゃって食堂内の雰囲気がとても温かいと感じました。私も皿を片付けに行った際に、沢山話しかけていただいている色々な方とお話が出来ました。たった一日でしたが、「小平市には一人ひとりが地域でのネットワークを広めようとする力があるのだな」と思い驚きました。私は小平市に住んではいませんが、温かく受け入れてく



ださる皆さんと接して私も地域の一員になれたような気がして本当に嬉しかったです。また、普段はそれぞれ違う仕事などをしていて、本来なら交わることの無い人達がこの食堂の活動を通して職業や年齢等を超えて親交を深められるのはとても素敵なことだと思います。

今回の体験は初めてのことで戸惑うこともありましたが、同じグループの皆さんや食堂に訪れた方々のおかげで本当に楽しく活動出来ました。私は大学で福祉を学びたいと思っていますが、またこのような活動に参加させていただき、多くの方々と関わりたいと思っています。

第36回日本高齢者大会と

日本世代間交流学会で発表しました

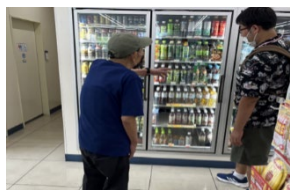
白梅学園大学 子ども学部 家族・地域支援学科 3年

磯井敬太・新藤萌々花

私たちは昨年11月12日に大正大学で開催された「第36回日本高齢者大会」と今年の1月6日にオンラインで開催された「日本世代間交流学会 第4回大学生による活動報告発表会」にて、認知

症あんしん生活実践塾での対象者へのボランティアの取り組みを、「認知症高齢者が地域であんしんして暮らしていくには」というテーマで発表いたしました。

日本高齢者大会の参加者からは、認知症に理解のある学生がいることで希望に思います等のご意見を頂きました。



世代間交流学会では、能登半島での震災が起きてすぐの開催であったため、より一層、多世代での普段からの交流、助け合いの大切さを感じました。認知症あんしん生活実践塾とは、家族介護者等が認知症の人への認知力の回復や症状の改善を目指す方法を学ぶ講座です。私たちは、家族介護者である参加者が安口して参加でき、参加後の



□活ケアの実践のサポート体制として、①講座中の介護(ケア)つき、SWV(白梅・ウォーキング・ボランティア)を行いました。講座中のケア付きでは大学内の施設である野菜栽培エリアや介護実習室、ピアノ室などを巡り、ピアノを弾いていたという方には曲を選んで頂きピアノの演奏を行って頂きました。SWVでは講座対象者のご自宅に伺い、30分から1時間程度のウォーキングやウォーキング前後に水分補給の促し等を行いました。

今回、認知症高齢者と大学生が関わることで高齢者が自分の知恵や経験を活かすことができ、お互いに良い交流ができたと感じました。また、認知症になっても、家族や周りの人が認知症の症状を理解して関わり、一緒に活動することで、それが認知力の回復に繋がっていくと考えました。今回認知力が回復し、生きがいが生まれいきいきとした姿になっていく高齢者の姿を実際に見ることができ感動しました。今後も、地域で暮らす認知症の人とその家族を支えていける専門職になれるように勉学に励みたいです。

3月の歌一最近の出来事から一

金田利子

- ・ 裏金でガタガタしながら一方で 民に反する事業堂々
- ・ 辺野古への基地の移設もその一つ 安保条約廃棄が基本
- ・ 子が親を親が我が子を殺す記事 日本社会の病いを写す
- ・ 教育のトップを担う文科相 裏金まみれで「教団」連携

皆さん、コミュニティ・サロン(下の①～④)と「中学生勉強会」(④)に足を運んでみませんか?

お待ちしております!

① ほっとスペースさつき

毎週火曜と木曜 10:00～16:00 (移転先検討中) 問合せ: 渡辺 穂積 TEL: 042-344-7412

② ほっとスペース第二きよか

毎月第二月曜 13:30～15:00 参加費 200 円 (移転先: 小平市小川町 1-755-2-106) 問合せ: 瀧口優 TEL: 080-3450-6878

*2023年7月10日(月)「ほっとスペース第二きよか」がスタートしました。参加費 200 円

*9月からは第一もしくは第二月曜に実施しています。(今後の予定は4月01日、5月13日、6月10日、7月01日) 13時30分～15時30分

③ カフェなかじま

毎月第1水曜日(祝日の場合は第2水曜日) 13:30～15:30 中島地域センター 参加費 100 円

④ 「分かった会」小中無料学習教室

毎週木曜日 18:00～20:00 (小川公民館) 問合せ: 奈良 勝行 (講師募集中!) TEL: 090-4435-4306

9月からは火曜日も中学校3年生用として開室しています。

イベントの予定

- ・04月01日(月) 白梅学園大学・短期大学入学式
- ・05月18日(土) 13時～白梅学園大学子育て広場

西ネットの今後の予定

大学世話人会: 04月09日(火) 18時～
地域世話人会: 05月14日(火) 18時～
大学世話人会: 05月28日(火) 18時～
地域懇談会: 06月11日(火) 18時～

西ネットの世話人

| ブロック | 地域世話人 | 大学世話人 |
|------|-------------------------|------------------------|
| 1 | 西 克彦・丸山安三 | 瀧口 優・杉本豊和 福丸由佳 |
| 2 | 足立隆子・芳井正彦・ 今野志保子 | 午頭潤子・土川洋子 吉村季織 |
| 3 | 大内智恵子・久保田進・ 杉浦博道・吉田徹 | 金田利子・草野篤子 西方規恵・牧野昴哲 |
| 4 | 桜田 誠 細江卓朗 | 井原哲人・森山千賀子 |
| 全体 | | 奈良勝行 |

*西ネット創立以来第4ブロックの世話人をお願いしていました渡邊穂積さんが、1月に亡くなられました。謹んでご冥福をお祈りします。

お願い: この広報紙『小平西のきずな』の編集方針は、「顔の見えるネットワークづくり」を目指して参加団体(者)の活動などを紹介し、文字通り「市民のきずな」を築いていこうとするものです。ニュースの全部または一部を改編することはお断りします。もし使用したい場合は編集担当までお申し出下さい。

投稿募集: このニューズレターは皆さんと一緒に作るものです。活動の報告やイベントの企画などについての原稿をお寄せください(奈良勝行)。

メール: ever.onward.nara@xd5.so-net.ne.jp

編集後記: 「小平西のきずな」も今回で49号を迎えます。西ネットのスタートから12年が経過し、地域では対面で集まる機会が増えていて、多くの人が「会いたい」「話したい」と思っています。徐々に枠を広げて行けたらと思います(瀧口)。